

スライドNo.20修正

下位脳障害の主な症状

I. 間脳

1. 視床 睡眠障害等(別項参照のこと)
目の奥が重い
炎症 脊髄(SC)を介して全身の痛み
2. 視床下部 自律神経失調症等の他
蓄積症状
3. 脳下垂体 アレルギー・アトピー等の免疫異常・
腺分泌障害(視床下部も関係)

手足の冷えと痺れと脱力感の関係

1. **atlas**の炎症で**Ay III**が圧迫されると延髄(下方)から視床下部(上方)に向かって**血液の蓄積**が始まる。
2. まず**視床下部**の**下部後方**から**細胞蓄積**が起こり、**両手の冷え症**が出現し、徐々に**上部前方**へ蓄積が及ぶと、**両足の冷え症**も出てくることになる。
3. 視床下部の**上前方**に及んだ蓄積の**容積飽和度**が上がってくると**冷え症**が末梢側から始まる**両足→両手の痺れ**と変化する。
4. 更に容積飽和度が**閾値**を超えて**細胞圧迫**に変わると、視床下部が全体的に圧迫され**両下肢→両上肢**の**麻痺**が出現することになる。
5. 圧迫が延髄近傍まで及ぶと呼吸障害等が出現することになる
(**Guillain-Barré 症候群**)。治療は両側**Ay III / bc+c+a / bc+c+a**

スライドNo.33修正

1. 神経

① (知覚) 神経

視床・視床下部 → SC

② 自律神経

迷走神経 (X) … 副交感神経
(相対的に交感神経)
脊髄傍A_xⅢを支配

延髄の炎症→迷走神経の症状

1. **副交感神経低下**及び**相対的交感神経亢進**
2. 主として「**T12~L4**」と「**T2~T6**」を支配
 - ①. **T12~L4** → 同側支配領域の血管収縮 → 支配領域の内臓・筋肉・骨の脆弱化 → 対側への側弯 → 同部位でのリンパ圧迫 → 発癌リスク ↑ etc
 - ②. **T2~T6** → 血圧 ↑ (相対的交感神経亢進) 多汗症 (**T2~T4**) (交感神経低下による相対的副交感神経亢進) 側弯 etc